

令和4年度 第6回広島市感染症対策協議会

【日時】 令和5年1月16日（月）19:00～20:00

【場所】 広島市役所 14階 第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、
佐藤 貴、平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、
南 心司

1 感染症に関する最近の情報

（1）新型コロナワクチン接種について（資料1 P1～5）

ア 接種率（1月10日時点実績）

本市におけるオミクロン株対応ワクチンの接種率は、34.0%（404,189回）であった。

また、5歳から11歳については、1回目の接種率が15.4%（11,781回）、2回目の接種率が14.8%（11,327回）、3回目の接種率が5.6%（4,301回）であった。

イ 今後の方針について

国は、令和4年12月13日に開催された厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会において、今後の新型コロナワクチン接種の在り方についての検討を開始した。

具体的な接種の在り方については今後検討することとされており、分科会等の開催等の都度、状況が示される予定である。

（委員意見）

・今後のワクチン接種の進め方について、1月26日に行われる予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会での議論を踏まえて対応してほしい。

（2）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P6～11）

令和5年1月6日、広島県は会見を行い、「三連休の感染対策」について緊急メッセージを発表した。会見の中で1月6日の新規感染者報告数が8,085人となり、2日続けて8千人を超え、入院者数も増加傾向が続いていることから、この増加ペースが続くと月末頃までに緊急フェーズ2の病床も満床となるとの見解を示した。

これに伴い、三連休の感染対策として、以下の内容を県民に呼びかけた。

- ・基本的な感染対策の徹底（換気・三つの密の回避・手洗い等の手指衛生等）
- ・重症化リスクの高い方を守る行動の実践
- ・混雑した場所への外出等、感染拡大につながる行動を控える（イベントに参加する際には、自身のため、周りの者のために、主催者が実施する感染対策に協力すること）
- ・普段と異なる症状がある場合は、外出を控える
- ・会食の場面では、大声や長時間にならないよう注意し、会話の際にはマスクを着用する

本市の感染状況は、1月6日の公表分が3,697人で過去最多となり、直近1週間（1月2日～1月8日）当たりの感染者数は18,034人で前週に比べ1.24倍に増加している。

本市としては、引き続き広島県等と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

・1月9日～1月15日の週では感染者数が減少に転じており、この傾向が続くよう、感染拡大防止の取り組みを継続してほしい。

(3) 高病原性鳥インフルエンザの発生状況について (資料1 P12~15)

今年度、全国的に高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の発生例が多く、1月11日時点で58例が報告されている。広島県では昨年度に続き発生しており、今年度は、12月16日に世羅町で1例目の疑似患畜が確認されて以降、同じく世羅町で12月19日(2例目)、12月27日(3例目)、12月30日(4例目)に発生が確認され、いずれも遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザ H5N1 亜型であることが判明している。また、1月10日には三次市で県内5例目が発生しており、殺処分数は1月11日現在、5例合計で約76万羽にのぼっている。今後の拡がりも懸念され、本市内で発生する可能性もあることから、本市では発生時に迅速に対応できるよう、関係課との連携を確認している。

(委員意見)

- ・通常、鳥インフルエンザは人に感染しないことを周知する等、風評被害につながらないように配慮してほしい。

(4) インフルエンザの流行入りについて (資料1 P16~19)

第1週(1月2日~8日)の広島市感染症発生動向調査事業において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が2.61人となったことから、1月11日、市内におけるインフルエンザが流行期に入った旨の広報を行った。これは、流行が見られなかった2021/22シーズン及び2020/21シーズン以来、3シーズン振りの流行入りとなった。また、県内の流行入りは第1週(1月2日~1月8日)の報告数が2.40人となったことから、1月12日に広島県が広報している。

また、基幹定点2か所におけるインフルエンザ迅速検査では、第1週はA型136件(B型0件)が検出されており、今後、さらに流行が拡大すると予想される。

本市では、引き続き手洗いの励行や咳エチケット等、感染予防対策について呼びかけていく。

(委員意見)

- ・インフルエンザの流行により、診断用キット、治療薬が不足することがない体制としてほしい。

2 12月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和4年12月分	令和5年1月分
		報告日 12/5～1/1	報告日 1/2～1/11 現在
2類	結核	5人 (患者5人、潜在性結核0人)	1人 (潜在性結核)
4類	つつが虫病	1人 (12/5)	
5類	急性脳炎	1人 (12/20)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人 (12/7)	1人 (1/10)
	水痘 (入院例に限る)	1人 (12/15)	
	梅毒	21人 (12/1、12/2、12/5、12/6、12/8、12/12(2人)、12/14、12/16(3人)、12/17、12/19、12/21、12/23、12/24(2人)、12/26(2人)、12/28(2人))	2人 (1/10)
	百日咳	1人 (12/19)	
新型 インフル	新型コロナウイルス 感染症	51,744人	23,873人

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和5年3月20日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：12月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は724人で、前月比1.33とやや増加した。インフルエンザは大きく増加、感染性胃腸炎は増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、第43週（10月24日～10月30日）以降増加が継続しており（図1）、1日当たりの新規感染者数は過去最多の3,697人（1月6日発表）を記録した。なお、広島県は12月16日に県独自の「医療非常事態警報」を発出し、12月23日から確保病床を最終段階である「緊急フェーズ2」に引き上げて対応している。基本的な感染予防対策に加え、体調不良時は外出を控えるなど、一人一人が対策を徹底することが重要である。
- インフルエンザは、第1週（1月2日～1月8日）に定点当たり2.61人と流行開始の目安である定点当たり1.00人を上回り、2019/20シーズン以来の流行期に入った（図2）。今後、流行の拡大が予測されるため、マスク着用、手洗い、換気、ワクチン接種などの対策を徹底することが重要である。なお、協力医療機関（市内2か所）による今シーズンの迅速診断キット検査結果では、累計197人（A型197人、B型0人）が報告されている。

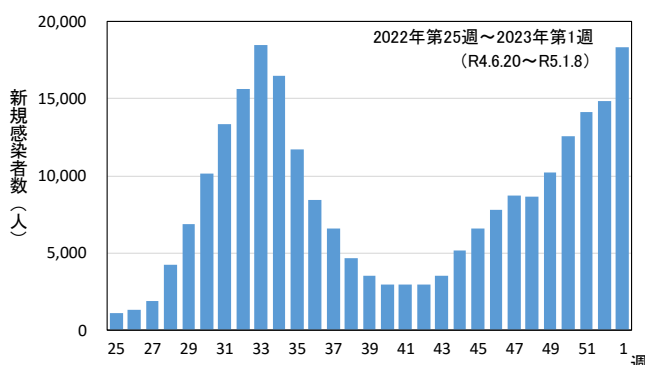


図1 新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移（広島市）

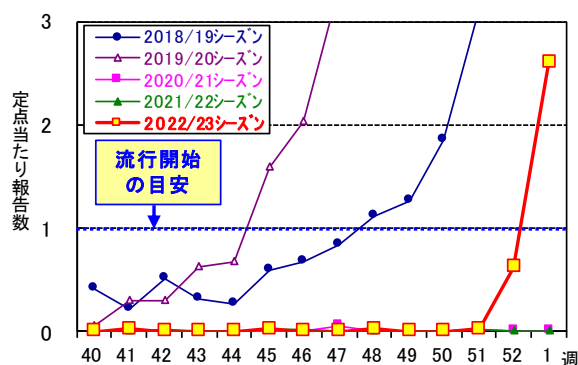


図2 インフルエンザの流行状況（広島市）

- 感染性胃腸炎は、第1週（1月2日～1月8日）に定点当たり5.83人の報告があった。冬季はノロウイルス等による感染性胃腸炎が増加するため、手洗いや便・吐物の適切な処理等の感染予防対策を徹底することが重要である。
- 梅毒の2022年累計報告数は317件（速報値）と、1999年の感染症法施行以降の最多であった105件（2018年、2021年）の3倍を上回った（図3）。また、2016年以降報告がなかった先天梅毒が2件報告された。なお、年代別では、男性は40歳代（男性の31%）、女性は20歳代（女性の44%）が最も多い。梅毒は治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあり、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。感染した心配がある場合は、早期に医療機関を受診することが重要である。

(3) 12月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核5件（患者：5件、潜在性結核：0件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：つつが虫病 1件
- 5類感染症：急性脳炎 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、水痘（入院例に限る） 1件、梅毒 21件、百日咳 1件

新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 51,744件

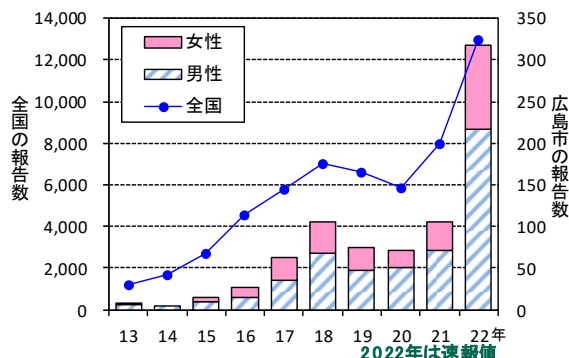


図3 梅毒の年間報告数の推移

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ・・・【流行始まり】、感染性胃腸炎・・・【流行中】
梅毒・・・【増加傾向】発生動向に注意が必要である。
新型コロナウイルス感染症・・・【流行中】

2 検査情報

12 月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
ヘルパンギーナ	単純ヘルペスウイルス 1 型	2022 年 10 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 53 型	2022 年 10 月	1 人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	ライノウイルス	2022 年 10 月	1 人
その他の発疹性疾患（発疹症）	*コクサッキーウイルス A9 型	2022 年 9 月	1 人
	*サイトメガロウイルス		

*：複数病原体検出例

4 人の患者から 5 種類のウイルス 5 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、単純ヘルペスウイルス 1 型、アデノウイルス 53 型、ライノウイルス、コクサッキーウイルス A9 型及びサイトメガロウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和4年12月解析分)

1. 週報対象(第49週～第52週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		22	0.65		10	流行性耳下腺炎		2	0.10	
2	咽頭結膜熱		9	0.43		11	RSウイルス感染症		4	0.20	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		36	1.71		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		590	28.10		13	流行性角結膜炎		5	0.63	
5	水痘		4	0.20		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		4	0.20		15	無菌性髄膜炎		1	0.17	
7	伝染性紅斑		2	0.10		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん		9	0.44		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		18	0.87		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(12月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		28	3.11
2	性器ヘルペスウイルス感染症		11	1.22
3	尖圭コンジローマ		5	0.56
4	淋菌感染症		8	0.89
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		16	2.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.33
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和4年12月分)

第49週～第52週(12月5日～1月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	5	134	975	14,530
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	1
	16 細菌性赤痢	-	-	2	16
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	24	169	3,352
	18 腸チフス	-	-	1	17
	19 パラチフス	-	-	1	9
四類	20 E型肝炎	-	2	38	428
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	5	68
	23 エキノコックス症	-	-	4	26
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	12
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	5	25
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	1	7
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	2	1	118
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	6
	40 つつが虫病	1	11	195	481
	41 デング熱	-	1	6	99
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	14	6	460
	46 日本脳炎	-	1	-	5
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	1	1	31
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	1	14
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	-	30	106	2,129
	62 レプトスピラ症	-	-	1	37
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	4	45	529
	65 ウイルス性肝炎	-	4	10	202
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	8	150	1,965
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	6	40
	68 急性脳炎	1	11	29	386
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	7
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	7	166
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	55	732
	72 後天性免疫不全症候群	-	11	66	863
	73 ジアルジア症	-	-	-	32
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	30	206
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	8
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	140	1,319
	77 水痘(入院例に限る。)	1	5	26	325
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	21	317	1,049	12,966
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	13	153
	81 破傷風	-	3	1	95
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	13	4	131
	84 百日咳	1	5	35	499
	85 風しん	-	-	1	15
	86 麻しん	-	-	-	6
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	14
新型インフル	88 新型コロナウイルス感染症 ※	51,744	312,894	4,107,413	29,352,927

※全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)。広島市、全国の累積は2020年からの合計。